

友だち わっしょい

中野みち子・さく ◆ 阿部 肇・え



NDC 913

友だちわっしょい

中野みち子

学校図書 1982 (昭和57年)

134P22cm(学図の新しい創作シリーズ)

学図の新しい創作シリーズ

友だちわっしょい

発行 1982年7月30日第1刷

著者 中野みち子

画家 阿部肇

発行者 漆原利夫

発行所 学校図書株式会社

東京都品川区北品川1-1-14

電話(03)472-2741

振替東京8-72415

〒140

印刷所 図書印刷株式会社

©Michiko Nakano, 1982

8393-363057-1038

落し・乱丁本はお取替えいたします

友だち わっしょい

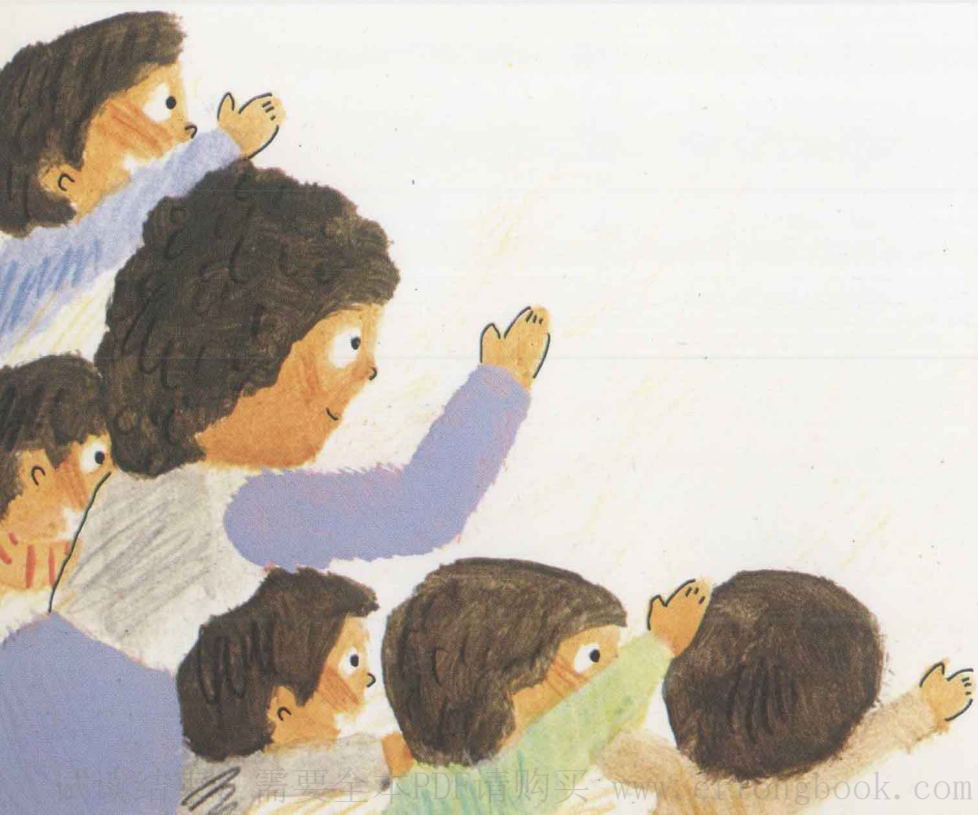
中野みち子・さく◆阿部 肇・え





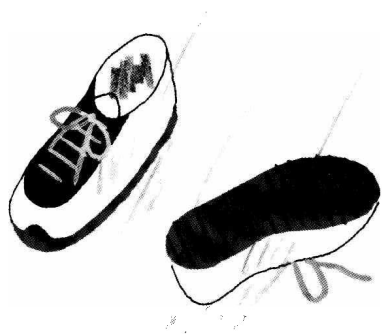
うめ代は、（……ありがとう。わたしたち、友だちよね。）あとは心の中でいった。そうして、ふたりで作ったまくを高くかかげて、プールの方へ走った。

三二層、ベッター・ショップの前で、行男やまり、堀先生やみんなが手をふっている。（三〇ページ）



そうてい 杉浦範茂

友だちわっしょい



もくじ



友だちだもんね

9

レッツゴー剛太

31

庭そうじ

67

知子班長、ある日の日記

87

この本を読んでくださったあなたに

132

友
だ
ち
だ
も
ん
ね



うめ代は、三年生になった。二年のときの組がばらばらにわかれてできた三年の一組。たんには堀先生。

夕食のとき、新聞を見ていたお父さんがいった。

「どうだ、うめ代。友だちできたか。うん？」

「うーん。」

うめ代は考えてしまう。だってとなりの席の清のこと、友だちといっているものかどうか。弟ののりひとにミルクをのませていたお母さんが、

「できたの？ できないの？ どっち。はきはきしなさいよ、まったく。」
とがった声を出したけど……。

——始業式しぎようしきが終わった後だった。先生せんせいが席せきをきめた。清きよしのとなりがうめ代よ。そのうしろが行男ゆきおとまり。この四人よにんが八班はちばんで、班長はんちやうは行男ゆきお。四よのかわの一いちばんうしろの席せきだ。

うめ代よは、そうつと清きよしを見た。太きよしつて大きいけど、色が白しろくてほそい目めがたれ目で、やさしそうに見えた。けれど、班はんごとに自己紹介じこしょうかいをするこ
とになって、うめ代よがはずかしいのをがまんして、

「玉田たまたうめ代よです。」

といったら、清きよしは、

「えっ？ たまたまうむよ。キャッ。おまえ、ニワトリかよ。……コケツ
ココココケツ……たまたまうんだよ、コケツコココ。」

はねのように手をばたつかせて、そのへんをかけまわるんだ。まりはふ
きだすし、班長はんちやうの行男ゆきおは、自分じぶんもニヤニヤしながら、

「しずかにしろよ。清きよしくん、おこられちゃうよ。」

と、立っていつて清を席につかせた。

それでも清はまたいったんだ。

「おまえの妹、ひよ子っていう名前か。」

休み時間はこうだった。うめ代の本をわざと床におとして、

「あつ、おちたよ。」

ひろつてのせると、またおとしていう。

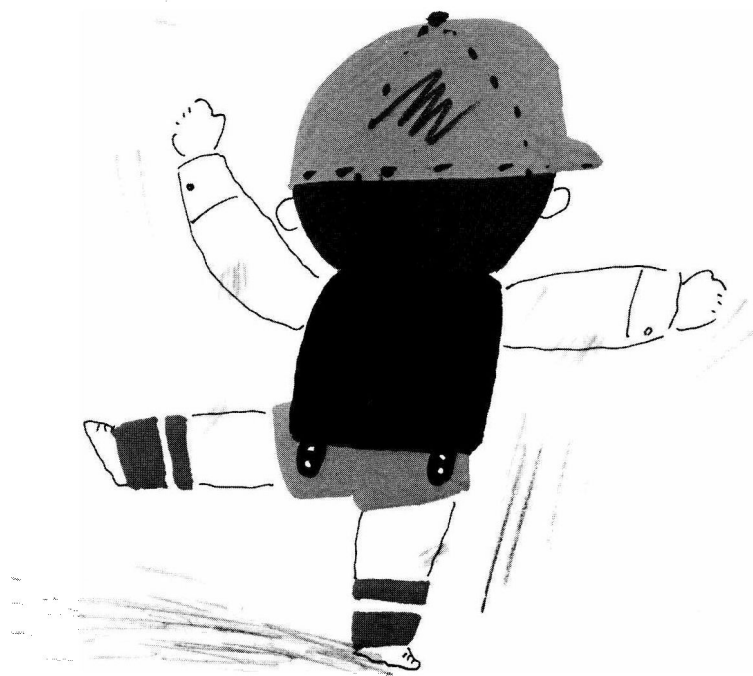
「あつ、おちたよ。きょうは地震かな。」

学校の帰りはこうだ。酒屋のかどの信号のところまで来ると、緑のてんめつが終わりそうだったのに、

「それ行け、それっ。」

つっ走ってしまった。いつもさげているペンダント、ぶらんぶらんさせて。そして、道のむこうで手をメガホンにしてどなったんだ。

「市民のみなさん、ニワトリが道をおうだんしています。たまたまうむよ



とっています。いいのでしょうか。」

「わるいねえ、清きよしくん。」

まりがいつでも、知らん顔で、

「キーヨシ キがつく。キーざえもん。キリコのしりまくり。しりをたたいて、キツチヨコキツチヨコ……」

へんな歌をうたいながら、行っちゃったんだ。

こんな清きよしなのなもの、友だちとっていいかどうか。でも、清きよしくんとならんだことだけ話そうと、うめ代よが顔をあげたら、もう、お父さんもお母さんもおかつてにはいなかった。

それからなん日かたって……。

うめ代よたちの学校は、毎年春に、子ども祭まつりをやる。三年生以上いじょうの各組かぐが、お店を出すんだ。本屋、おもちゃ屋、つりぼり、ゲームセンター、なんでも屋、ペットショップ、いろいろな店がずらり、校庭にならぶんだ。きよ

ねんは二年生だったから、お客さんで買うだけだったけど、ことしはお店
がやれる。みんな、はりきっていた。

なんの店をやるか、二日も相談して、やつとペットーシヨップ、ペット
屋にきまった。売るものは、ザリガニ、オタマジヤクシ、フナ、デンデン
ムシ、カブトムシなんかで、自分でとってきて売る。女の子で、とれない
子は、ビーズや布ぬので、チョウチョや、トンボや、テントウムシや、イヌな
んかのペンダントや、ブローチや、かざりものなんかを作る。

きょうは、かかりをきめる。売る人、ふくろに入れる人、おつりを出す
人、金庫かぶらがかりがきまって、つぎは宣伝せんてんがかりふたりをきめる。司会しかいの
正ただしか、

「宣伝せんてんがかりというのは、店の前で、いらっしやい、いらっしやいと
か、安いよとか、よびこみをやったり、宣伝せんてんタイムに、朝礼台の上で宣伝せんてんした
りするかかりです。みんなが買いに来てくれるようにするだいじなごと